

がん追跡し超音波照射

東大 高精度の治療装置開発

東京大学の光石衛教授 原弘之特任助教らは、がんの位置を検出しながら治療用装置を開発した。

従来、呼吸によって位置が動く臓器に照射の精度が要求される治療法を適用していくが、新装置なら追跡しながら照射できる。月内にも肝臓がん患者で機能を確かめる当たるよつに手術台を動

かす。精度1ミリで患部の動きに追随でき、治療用超音波は検査でよく活用されている。超音波を照射して患部に集め、がんを破壊する治療法があり、前立腺がんなどで使われている。放射線と違つて被曝(ひばく)の心配がなく、患者の負担も比較的少ないとされる。

研究チームは横浜市立大学付属市民総合医療センターで肝臓がん患者を対象に、呼吸による臓器の動きに追随できるかを確かめる臨床研究を開始する計画だ。機能を見極めたうえで3年をめどに治療を始めたい考えだ。